

きぬた



2023年3月1日
社会福祉法人多摩福祉会 砧保育園
世田谷区祖師谷4-3-17
03-3483-1950

はるかぜふけば はなよ わがはな

おがわがあふれる はなよ わがはな (わらべうた)

はるかぜふけば

あたたかい陽射しが届くようになってきましたね。樹木からも少しずつ新しい芽が出てきていて、春の訪れを感じる季節となりました。そして、らいおんさんとのお別れの時が近づいていることを意識する時期でもあります。

小さい頃から毎日のように通い続けた砧保育園。子どもたちにとってどのような場所だったかな？大まかに振り返ってみると、にじでは静かな空間でたっぷり大人に受け入れてもらいながら、生理的欲求を満たしてもらうことで快い生活を過ごし、ひよこでは沢山歩けるようになって広がった世界の中を好奇心の赴くままに探索し、りすではお友達と一緒に遊べるようになることの楽しさを知り、うさぎで初めての異年齢生活でかわいがられながら沢山刺激を受け、きりんではらいおんへの憧れをたっぷり膨らませ、そしてらいおんでは色々な花を目一杯開かせた。そんな日々であったら嬉しいです。

そのような生活の中にも、一人ひとりそれぞれの物語があり、それぞれ色は違うけれど、一人ひとりが輝いている。その色が混ざり合っ一つになるというよりは、色々な色が寄り集まって豊かな色彩でどんな角度から見ても違った趣きがある。「みんな違ってみんないい」はそうなのですが、「みんな違ってもいい」ではなく、「みんな違うからいい」という価値観を大切にしたいと思うのです。砧保育園の子どもたちは異年齢生活の中で、そのような価値観を無意識に育んでいるのだと感じています。

また、違いがあると考えるきっかけにもなります。自分と違う年齢の友達と接することで、知っていることもできることも違う存在に対してどのように関わればいいのか。手伝い過ぎてもいけないし、全く手伝わなくてもできない。その微妙な距離感を感じ取りながら、状況に合わせて対応を変えてみる。上手くいかなかったらまた考える。そのように葛藤しながら考え、小さな成功体験を積み上げていく。大人に教えられた通りにしていれば良しとされる生活ではなく、一人ひとりが主体的に考える必要がある生活の保障。その結果それぞれが「その子らしく」育ち、自分で考え選択することで、納得して豊かな人生を送ることができる。そんな願いを込めながら、いつも子どもたちの育ちを見守らせていただいています。

この先、また葛藤することもあるでしょう。それでも砧保育園の子どもたちは、遊びや生活の中で自分で考え、友達の力も借りながら乗り越える体験を積み重ねてきました。たっぷり膨らんだ芽が、この先色々な大人や友達のあたたかい陽射しを受けながら、しっかりと花開くことを楽しみにしています。らいおんさん、卒園おめでとう！！

<3月の予定>※状況により変更あり。

- 1日(水) わらべうた(らいおん)
造形展示 太陽・星(～2・6日)
- 2日(木) 荒馬
- 3日(金) 桃の節句
- 7日(火) 卒園式の練習(らいおん)
- 9日(木) 卒園式の練習
(きりん・らいおん)
- 10日(金) 造形
- 11日(土) 卒園式
- 14日(火) 異文化交流
- 16日(木) 誕生会 言語指導(きりん)
- 22日(水) 新年度説明会
- 23日(木) 避難訓練
新うさぎ面談(新3歳児)
- 29日(水)～31日(金) 新年度移行保育
きぬたん(園庭で遊ぼう)

<4月の予定>※状況により変更あり。

- 3日(月) 入園式
- 4日(火) 受入れ保育開始
1・2歳進級児面談(～15日)
- 7日(金) 造形
- 12日(水) 異文化交流
- 13日(木) 避難訓練
- 18日(火) 進級お祝い会
幼児懇談会(～20日)
- 21日(金) 造形
- 25日(火) わらべうた(幼児)



〈レジリエンスが育つとは?〉

昨今教育業界で話題となっている「レジリエンス」という言葉をご存知でしょうか?基本的には、困難に粘り強く立ち向かう力というニュアンスで使われることが多いかと思います。では、そのような力はどのように育まれるのでしょうか。「簡単に諦めずに、もっと粘り強く頑張らないとだめだよ!」と叱咤激励すれば育つのでしょうか?もしそうであれば、とっくにみんなそうなっているはずですよ。一説によると、「自由あそび」を沢山した子程レジリエンスが高いというデータがあるそうです。これは何を表しているのでしょうか。あそびには、「失敗するからおもしろい」という要素があります。遊びで失敗した時って落ち込むより笑っていませんか?また、笑っていないとしても、「次こそは成功させてやる!」と前向きにチャレンジしていることがほとんどではないでしょうか。これは、誰かに結果を評価される訳でもなく、自分が納得できるまで好きなことに没頭し、できるようになるまでチャレンジし続けることが許されているからではないかと思います。子ども時代に心行くまでそのような体験をした子ども達には、大人に教わる訳でもなく、いつの間にかレジリエンスが育っていくのだと考えています。

最近幼児でブームとなっている独楽回しを見ても、まさにそのような姿が沢山見られます!初めは自信がなくてやらなかった子達が、周りが没頭しているのを見て刺激され、今では失敗を恐れず堂々と練習しているのです。その内面の育ちを感じると、「あ～この時期に体験できてよかった」と心の底から嬉しくなります。ここまで来るのに、何カ月も経っています。今の時代は効率的に目に見える能力を養うことに一生懸命で、子ども達が「のびのびと自分らしく育つ」ためには、あまりにもテンポが速すぎたり、色々な課題が課せられて窮屈な時代だと感じています。つい「遊んでばかりいないで」と思いがちですが、是非、とことん遊ぶからこそ育つ大切なものが沢山あるということを、子どもたちの姿から感じていただけたら幸いです。